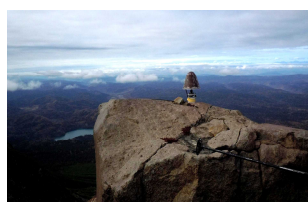
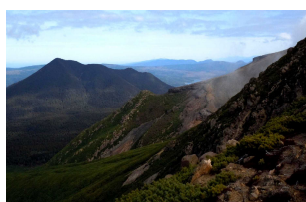
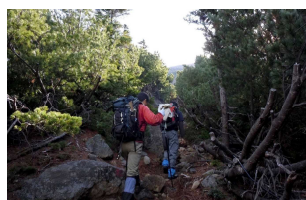


雌阿寒岳		標高
めあかんだけ		1499m
登り	2:25	4:32
山頂	0:22	
下り	1:45	

△△ 雌阿寒岳〔雌阿寒温泉コース〕△△

10月22日晴れ気温7度、すっかり秋も深まり早朝の空気は身を切る冷たさですが日中15度ぐらまで気温が上がるとの予報を信じ、寒さに強いメタボ隊員、同僚隊員、病みあがりヘルニア隊員は、へっぽこ登山隊サマーシーズンの締め括りに雌阿寒岳を目指しました。

峠を越えると立ち昇る噴煙が青空に白く映え山頂からのパノラマに期待が膨らみ、硫黄の臭い漂う駐車場には5台ほどが先着し後続も次々とやってきます。入山届を済ませ森の中を進むとソーラーパネルが突如現れ、入山者を数えているらしくその先には黄色のテープが張り巡らされ表示板に旧道へ迂回するよう書かれているので進んで行くと、急な斜面が二合目まで続き一気に汗が噴き出してきます。木の根が網目のように這う針葉樹林は三合目あたりから背丈を越すハイマツのトンネルに変わり、斜面が崩壊した沢を渡り四合目あたりからハイマツが低くなり足寄方向の視界が開け、足元にオンネトーの青白い湖面が広がります。



火口の岩稜が黒いシルエットで迫る五合目から山腹を東側に廻り込むように六合目へ進むと津別方向の見晴らし広がり、七合目で向いの山との間に阿寒湖がわずかに望めます。

景色はハイマツの緑から赤茶けた火山礫と岩に変わり、八合目の岩に巨大キノコのような機械が置かれ地面の動きを観測しているらしく、ここまで持ち上げるのは大変だろうというぬ心配をしていると山頂を包み込むように雲が湧き出し、予報より速い天気の崩れにペースを上げ九合目の噴火口脇に出ると風は横殴りに雨粒を吹きつけ視界が遮られます。「シューツ」という水蒸気の音に交じり時折「ドォーン」という鈍い振動が伝わり、この山が生きていることを感じながら切り立った火口の淵を進み山頂に到着、予定ではここからさらに阿寒富士を目指すつもりでしたが天気が回復しそうにないのでここから引き返すことにしました。帰りの九合目でかわいいワンちゃんが出迎えてくれたのでしばし戯れていると、雨風が強まり気温も下がってきたので完全防水に変身して下り、速攻で「オンネトー温泉景福」へと向かい青白いお湯の露天風呂と透明の内風呂で温まりました。

残念ながら今回の雌阿寒岳も雲の中、百名山の遠征は羅臼岳に続き連敗でした。

